

# 朝倉とともに 2018.11.18

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター  
代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

## 第29号

## 支援の輪広がる

昨年このイベントに災害復興支援として志波柿を販売させていただいたところ、瞬く間に完売し、九州北部豪雨災害への支援の輪が広がりを見せていた。



今年はイベントの主催者から「ぜひ、志波柿を出して欲しい」と依頼があり、期せずして昨日、収穫支援活動が行われていたのも何かの縁、つながりを強く感じた。赤く色づく柿は秋の味覚を代表するとともに、イベントを盛り上げていた。



## 志波富有柿 今年も完売



朝10時からのスタートであったが、時間前からぞくぞくと人々が集まり始め、軽トラックの荷台に作られた新鮮野菜コーナーには黒山の人だかりで既にレジには行列ができていた。その中で朝倉の被災状況を説明しながら志波柿の販売をさせていただいた。

11月18日(日)開催された那珂川市のイベント「南畑美術散歩」の会場で前日に収穫を行った志波柿の販売が行われ、用意された80袋250個分が昨年に続き、好評な売れ行きで完売した。



## 朝倉災害を忘れないために

会場脇で地域の新鮮野菜とともに志波柿は並べられた。「九州北部豪雨復興支援」と表示し、生産者農家と昨日の収穫状況の写真をプリントしたものを立て看板で掲げた。会場に来られた方々は看板を見ながら赤く実った志波柿を手にとっていった。イベントは地域全体で行われており、



▲郵便局のロビーにも販売ブース設置

郵便局にも志波柿の販売ブースが設置され、訪れた方々が買い求めて行かれた。延べ約2000人が来られるこのイベントで朝倉の災害を忘れずに伝える役割を志波柿は担い、復興への象徴となっている。

九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。